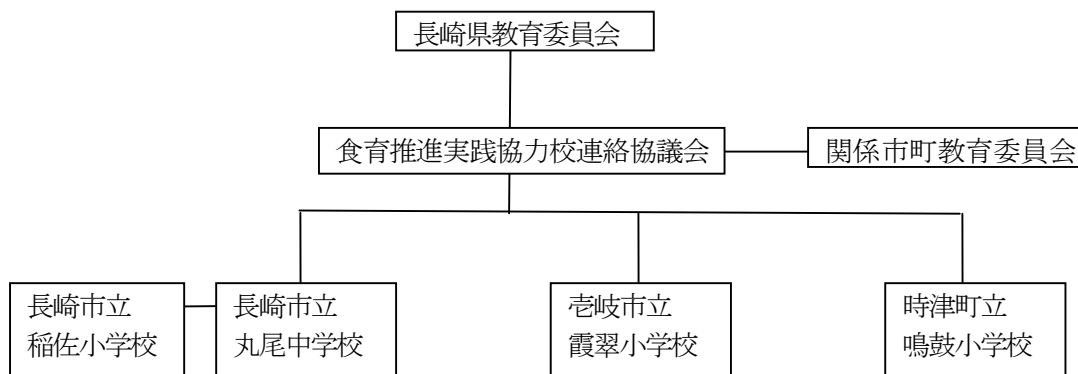


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	長崎県
推進地域名	長崎県全域

1. 事業推進の体制

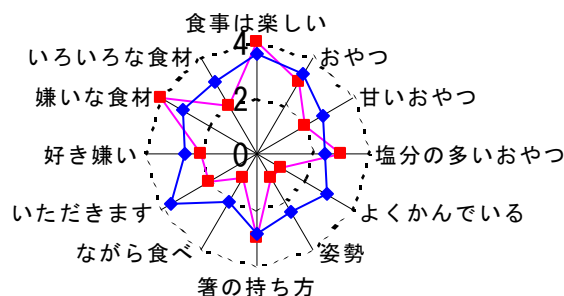
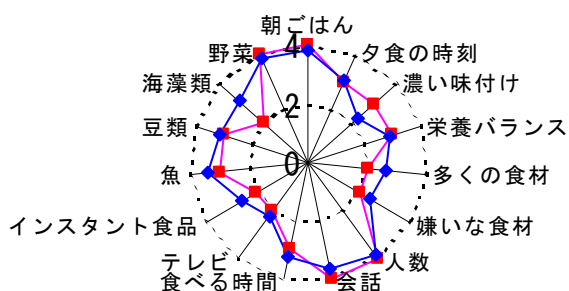


2. 事業内容

テーマ 栄養教諭と連携し専門性を生かした食に関する指導の充実について

○ 児童生徒の食に関する実態の把握

- ・ 研究に取り組むに当たり、各学校において項目を定め、アンケート調査を実施した。
- ・ アンケート調査と併せて、給食における食事のマナー、食事の量、残量などの実態把握を行った。
- ・ さらに、保護者の意識調査も実施し、児童生徒を取り巻く食の環境について実態を把握した。



【食生活アンケート (家庭の食事に関する項目)】

【食生活アンケート (児童の食事に関する項目)】

- ※ 項目ごとに1そう思う 2少し思う 3あまり思わない 4そう思わないなど、4段階で回答を求めた。
- ※ 青は学校全体の平均値 赤は個人 (ある児童) の回答結果である。
- ※ 個人の結果と学校全体の平均値をレーダーチャートで個人に提示し、改善・啓発を図った。

○ 食に関する指導全体計画、年間指導計画の見直し

- ・ 食に関するアンケートの結果を受け、各学校における児童生徒の課題を明確にし、めざす子どもの姿について校内で共通理解を図った。
- ・ 学習指導要領を踏まえ、発達の段階を考慮しながら、めざす子ども像を達成させるための食に関する指導の年間指導計画を見直した。
- ・ 栄養教諭が指導にかかわることで効果が高いと思われる場面について校内で協議し、共通理解を図った。

○ 給食時間の見直し

- ・ 給食時間の在り方について、準備から片付けまでの一連の流れの確認と当番や当番以外の動きなど見直しを行い、校内で共通理解を図った。
- ・ 丸尾中学校では、当日の献立について配布されている一口メモなどの配布資料の効果的な活用について、これまで一斉放送で行っていたものを、各クラスの保健部の生徒が読むようにするなど変更を行った。

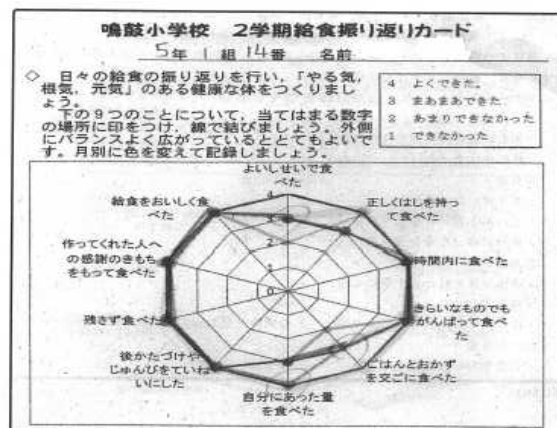


【食育クイズ】



【栄養教諭の指導】

- ・ 霞翠小学校では、栄養教諭が指導を行うだけでなく、曜日を決めて担任等も指導を行うなど通常の給食時間の指導に変化を持たせ、興味・関心を持続させる工夫を行った。
- ・ 鳴鼓小学校では、「栄養」、「マナー」、「感謝」の3つの視点で給食時間を振り返る「振り返りカード」を活用し、食生活の改善につなげた。



【給食時間の振り返りカード】

○ 栄養教諭の授業実践

- ・ 職員間の共通理解を図るため、学校で行う食に関する指導の在り方について校内研修を実施した。
- ・ 教科等のねらいを達成し、児童生徒の実態に合った授業の展開がなされているのか、栄養教諭の専門性が活かされているのかなど視点を定め授業研究を行った。



【栄養教諭による授業実践】



【実践協力校参加の授業研究会】

- ・ 各学校で実施している授業について資質向上を図るため、研究校が連携し各学校の研究授業及び授業研究会に相互に参加した。

○ 公開授業の実施

- ・ 研究指定校の当該及び近隣市町の各小・中学校を対象に公開授業を行った。授業に際しては、栄養教諭がT Tで実施する授業、栄養教諭の資料提供による担任の授業を公開した。
- ・ 給食時間を活用し、教育活動全体を通じて実践している様子を参観者に見せることで、学校における食育の在り方について啓発を図った。

テーマ1～3に共通する具体的計画

- ・ 前年度の実践協力校の成果を受け継ぎ、課題を意識した取組を行うために、前年度と今年度の実践協力校の合同の会議を設定した。
- ・ 実践協力校連絡協議会を開催し、栄養教諭の専門性を生かした指導について研究することを確認した。
- ・ 各学校での授業の資質向上を図るため、お互いの授業研究会に参加した。
- ・ 必要に応じて、県教委の指導を受け効果的な実践へつながるように努めた。
- ・ 実践協力校の近隣市町の学校から、管理職及び食育担当者、栄養教諭等が悉皆で公開授業に参加し、栄養教諭未配置校においても、学校における食育について実践例を公開し理解を深めた。
- ・ 各実践協力校の効果的な授業実践について、県教委のwebページに掲載し啓発に努めた。

本事業における評価指標と考察

	4月		11月
○ 食事作りや片付けの手伝いをしますか。	19.6%	→	29.4%
○ 嫌いな食べ物が出た時に頑張って食べますか。(家)	40.0%	→	47.3%
〃 (学校)	95.3%	→	97.8%
○ 学習にやる気が起こらないと感じますか。(時々感じる)	35.5%	→	28.4%
〃 (感じない)	51.1%	→	62.4%
○ 朝食は主食、主菜、副菜がそろっていますか。	28.0%	→	41.3%

〈考察〉

アンケートの結果を基に朝食摂食や食事に対する意識など課題を明確にし、指導を行った。家庭や地域を巻き込んだ取組を展開することで、学校と家庭、地域が共通理解を図ることができ、一体となって食に関する意識を向上することができた。家庭の意識が向上したことで、朝食がよりよい内容へ変化したと考える。

本事業の成果

- 栄養教諭と連携することで職員の食育に関する理解が深まり、職員が一丸となって取り組むことができた。
- 家庭や地域と連携することで、子どもたちの意識だけでなく家庭の意識も向上した。
- 栄養教諭の専門性を生かした指導について研究することで、「栄養教諭の専門性」について理解を深めることができた。
- 給食時間の振り返りや、指導の工夫を行うことで、毎日の給食時間が有意義な食の指導の時間となった。
- 食事の面だけでなく、児童生徒の生活態度にも良い変化が見られるようになった。
- 児童生徒に変化が見られたことで教職員の食育への意欲や必要性が高まった。
- 公開授業を行ったことで、栄養教諭未配置の学校においても、学校における食に関する指導の在り方に対する理解を深めることができた。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

- 家庭・地域との連携は一定の成果が見られているが、さらに深め啓発する必要がある。
- 栄養教諭と、担任の連携や専門性を生かした授業が効果的に実践されるために指導力の向上をさらに図る必要がある。
- 実践協力校の取組を近隣の学校にも広げ、各学校の課題に応じた実践に努める。
- 管理職及び教職員の食育に関する意識の向上を図る。